

# やしお

 この広報誌は、栃木県共同募金会の助成により発行しています。

栃木県ホームヘルパー協議会  
ヘルパー通信第46号  
令和2年3月30日発行

◆事務局/  
とちぎソーシャルケアサービス共同事務所  
◆発行人／仁平明美  
TEL.028(600)1725・FAX.028(600)1730

## 会長挨拶

## 「やしお」に向けて

栃木県ホームヘルパー協議会会長 仁 平 明 美

「学びの場」を提供することに  
あると考へています。

任意団体である協議会だけでは  
は微力な存在ですが、日本ホー  
ムヘルパー協会、栃木ソーシャ  
ルケアサービス共同事務所、

ノーマライゼーション研究会等  
の存在、共同募金会の助成も含  
めヘルパーと言う業務には多く  
の期待と応援があると思つてい  
ます。協議会の活動は会員に止  
まらず支援に係わる人とが繋が  
ることをも念頭に、実践に役立  
つ研修を今後も開催して行きた  
いと考えています。

2025年に向け、生活支援  
が地域支援事業の中で行われよ  
うとし、新たな支援者仲間が誕  
生している。立場は違つても人  
を支援する役割を担う者は、単  
に出来ないことを代行でするこ  
とでばかりでは無く、利用者一  
人一人の尊厳を守り、自立支援  
の視点を持つ業務の展開が求め  
られるることは共通のことと言え  
る。また、介護保険下による訪  
問介護の世界では自宅での重度  
者、終末期への支援を医療との  
連携のもと行われ、より専門的  
なサービス提供が期待されてい  
る。立場は違つても様々な利用  
者に係わる人にとって、高い倫  
理観を持ち、知識・技術を提供  
することが求められる。その中  
でのヘルパー協議会の役割は

来年度研修の予定は立てまし  
たが実施は危ぶまれます。従来  
の研修に捕らわれない学びの方  
法はないか等々、皆さまの知恵  
をお借りしながら、この機に幅  
広い活動をも検討していきたい  
と思いますので、ご協力のほど  
よろしくお願ひいたします。

すが、役員会や総会の開催も出  
来ず、今までの体制のまま継続  
することと成りました。ご理解  
の上ご了承ください。



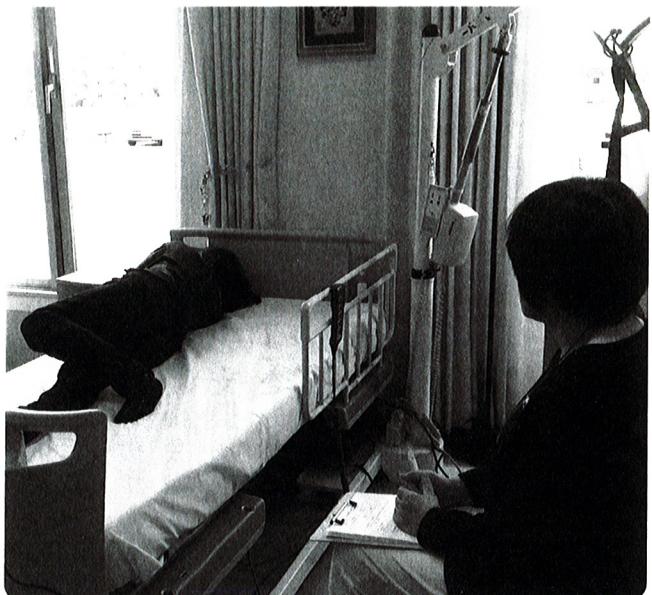
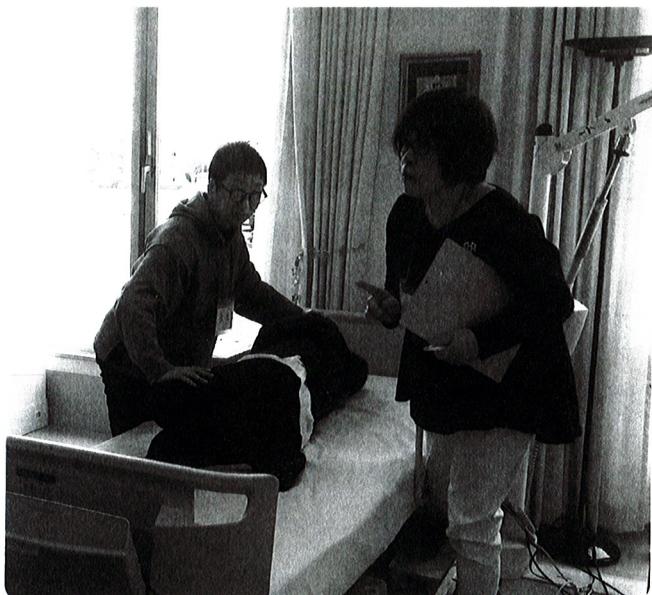
# 研修会 毎回新鮮

会員 長澤みかこ

皆さまのご意見お聞かせください。研修会に参加し、そこで得た知識、技術は即役立つものや、現場にその対象者が居なければ活用できないものもある。使わない技術は時間が経つと勘が鈍つたり、大切なポイントを忘れてしまったりするが、同じ内容で何度も学習することは、忘れては覚える繰り返しで身に付き、技術の説明要領も学んでいく。

また、困難なケース等の具体的な意見を聞くこともある。そして現場で実践してみてその結果を仲間に伝えたり、研修会で報告し技術を共有する、上手くいかなつたことはまた検討し合える、この繰り返しで応用力も身についていく。

新しい利用者に出会えば、また、ゼロからのスタート。永遠にゴールは無く、常に勉強、そこがこの仕事の面白いところだと私は思う。



## 来年度の研修

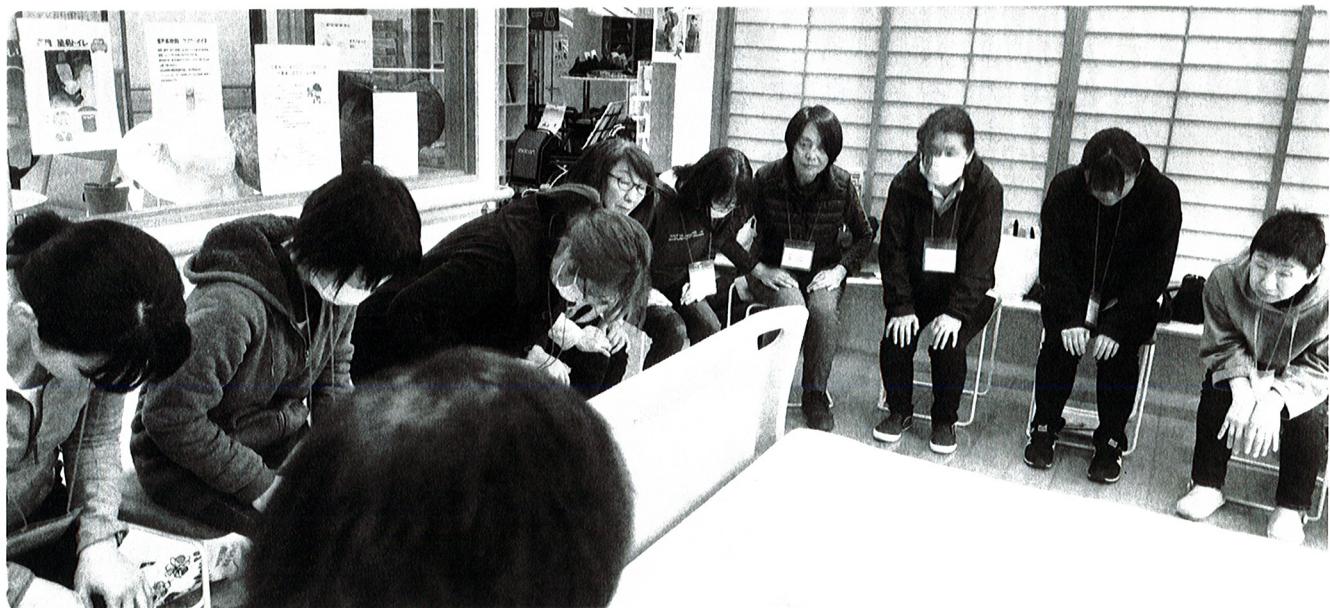
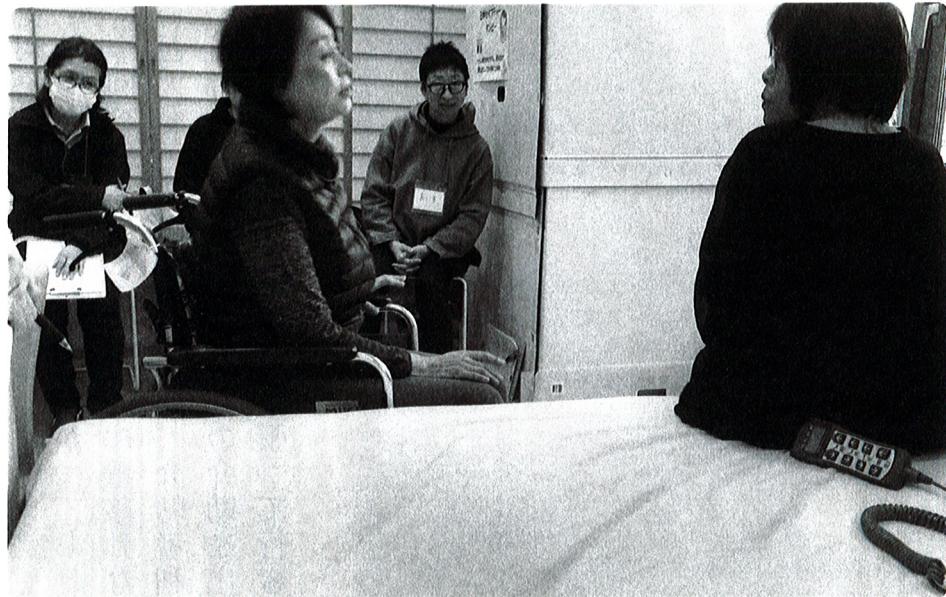
- 1 起床、立位、移乗する
- 2 リスクマネージメント
- 3 福祉用具とその代用
- 4 オムツ交換（技術編）
- 5 排泄介助

理学療法士による介助技術

- 7 同上

自立支援の視点を随所に触れて頂けるよう各講師の方にお願いします。

（コロナウィルスの状況下8月からの実施を考えていますが、流動的な対応と成ることとはご了承ください。）



その他  
研修に参加した方の感想です。

- ・勉強になりました、日々の介護に生かしていきたいと思います。
- ・きめ細かい介護、改めて勉強になりました。



- ・ 我流になりがちな介助ですが、より  
    そのながらお互いに楽な介助を目指  
    したいと思います。本日は大変勉強  
    になりました、ありがとうございました

・ 身体介護の支援から遠ざかつており、  
    今回の研修では声かけや体重移動など大変勉強になりました。介助者利用者ともに、楽な方法での介助を出来るように今後も日々頑張つて行きます。

・ 先生が声をかけて下さり緊張がとけました。1つ1つの動作を無自覚に行つていましたが、ことばとして認識することができました、ありがとうございました。

・ 普段、身体介護をしていない為とまどう事が多くありましたが、大変勉強になりました。

・ 自立した支援をしていいるつもりで利用者様の動きをせいぎよしてしまっていた事があつたなど実施をして気が付いた。無自覚に行つてしまっているのだと思いました。

・ 介護する側、される側、あたりまえにする側にいる為、つい自分の都合の良い介護をしてしまう。自分の体の動きや、気持ち等、反映させてされる側に接していくこうと思う。基本的な動き、介護だが毎日やつていなのですが忘れてしまう、身についたと思つてもいつのまに我流になつていた。反省。